

J R九州病院 消化器センター ご案内



消化器センターでは、

消化器内科、外科、病理診断科が

診断から治療まで

一貫して行っております。

ごあいさつ



家庭で美味しく食事をいただく・・・
時には仲間と適量のお酒で人生について語りあう・・・
健康的な食生活は豊かな人生をおくる上で最も大切な
ことの一つです。

その食生活を支えているのが消化器です。皆様が日々いただいている食事は、食道、胃十二指腸、小腸、大腸と運ばれていく間に消化され、栄養の吸収が行われます。また肝臓、胆道(胆のう、胆管)、膵臓ではそれぞれ栄養の貯蔵や効果的な消化に必要な消化液の産生、血糖値をコントロールするホルモンの産生などが行われています。

食事が美味しく食べられない、すぐにお腹いっぱいになる、胸がむかむかしたり吐いてしまう、便秘や下痢を繰り返す、お腹が痛んだり、張ったりする、便の色がいつもと違う(黒かったり血液が付着している)、おしりが痛む、貧血気味である、皮膚や白目が黄色っぽくなっている(黄疸)。これらは消化器からの救難信号(SOS)です。

当消化器センターは4つの部門からなります。

- 消化器内科(産業医科大学第3内科)
消化器内視鏡学会専門医を含む常勤4名+非常勤6名
- 外科(九州大学第一外科)
外科学会指導医/専門医、消化器外科学会指導医/専門医、
肝胆膵外科学会高度技能指導医、大腸肛門病学会指導医/専門医
などの資格を持つ常勤6名
- 外来化学療法室
がん治療認定医、がん化学療法認定看護師1名
- 病理診断科
日本病理学会指導医/専門医、日本臨床細胞学会指導医/専門医
などの資格を持つ常勤医1名

以上のプロフェッショナルな4部門が迅速に、スムーズで緊密な連携を行うことで皆様に充実した医療(検診、検査、治療)を提供させていただきたいと考えております。お気軽にご相談ください。

J R九州病院 副院長 外科 亀井 隆史

外来担当表

	月	火	水	木	金
消化器 内科	光岡	妹尾	光岡	妹尾	光岡
		石原	村石	石原	村石
外科	亀井	高畑	亀井	大畑	高畑
	大畑	亀田	自見	自見	亀田
		田村		田村	

※ 消化器内科は午後及び急患の場合は受入可能です。

※ 外科は手術日は月・水・金、検査日は火・木です。
午後及び急患の場合は御相談ください。

お問い合わせ

TEL 093-381-5661(代表)

FAX 093-381-1077(代表) / 093-382-5676(医療連携室専用)

<http://www.jrkyushu-hospital.jp>

お問い合わせは医療連携室へご連絡ください。

胃、膵臓、肝臓、腸などの消化管疾患に幅広く対応します。

外来化学療法室 (西4階病棟)

通院で化学療法を行う患者さんに、より快適で安全な環境を提供します。



1. 外来化学療法室とは

外来化学療法室は、通院で化学療法を行う患者さんに、「より快適により安全に安心して治療を受けられる空間」をご提供する目的で平成25年4月1日に設置した治療室です。抗がん剤治療に関して専門の知識を持つ医師、看護師、薬剤師が連携して患者さんの治療にあたりるとともに、治療中は落ち着いた環境でテレビや音楽鑑賞をして頂きながら快適に過ごしていただけます。

2. ご利用可能な患者さん

- ・ 化学療法治療(点滴・CVポートなど)を外来通院で行う方
(乳がん、大腸がん、胃がん、膵臓がん、胆管がん、膀胱がん、前立腺がん、子宮がん、卵巣がん)
- ・ リウマチの生物学的製剤(点滴)を使用する方

3. スタッフ

抗がん剤治療に関して専門的な知識を有する専任の医師および看護師がおり、抗がん剤やリウマチの生物学的製剤に関する専門的な知識を持つ薬剤師が患者さんのご希望により薬についてのご相談をお受けします。



消化器内科 (外来棟2階)

食道や胃腸及び胆膵をはじめとした幅広い消化管疾患に対応します。



1. 消化器内科の概要

消化器内科では、食道や胃腸をはじめとする幅広い消化器疾患について、質の高い診断・治療を目指しています。最も重要な診断法である内視鏡検査の進歩は著しく、当科では患者さんに苦痛の少ない検査施行を目標としています。また、外科や放射線科など他科とも協力し、個々の患者さんに対して最良の治療法を行うよう努めます。

2. 主な対象疾患

- ・ 食道、胃、十二指腸、大腸など消化管の疾患
(悪性腫瘍、潰瘍、腸炎、過敏性腸症候群 など)
- ・ 肝臓、胆のう、胆管、膵臓の疾患
(悪性腫瘍、胆石、膵炎 など)

3. 検査・治療の特色

検診の精密検査や治療内視鏡のほか、内視鏡的胃ろう増設術及び交換を行います。また、平成21年8月より嚥下機能評価も行い、リハビリテーション室や栄養室と連携して、患者さんの栄養状態の改善を目指します。

なお、急性疾患には、外来日以外にも対応させていただきます。さらに、産業医科大学病院をはじめ基幹病院と提携しています。

【主な検査】

- ・ 上部・下部消化管内視鏡検査(拡大観察、超音波内視鏡)
- ・ 食道、胃、大腸における内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)
- ・ 内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)
- ・ 超音波内視鏡か穿刺吸引法(EUS-FNA)
- ・ 内視鏡的胃ろう増設術(PEG)

外科 (外来棟2階)

食道、胃、大腸、肝臓、膵臓、胆道(胆のう、胆管)の手術を腹腔鏡を適切に使って行っています。



1. 最先端の内視鏡技術

早期発見が難しいといわれる肝胆膵の悪性疾患の診断や治療に欠かせない種々の内視鏡検査／処置(ERCP,EST,ERBD)や内視鏡を利用した胃瘻造設術(PEG)を積極的に行っております。また、早期の癌に対して腹腔鏡を用いた「傷の小さな」「体にやさしい」手術を積極的に行っております。

2. 日帰り手術

お仕事などでお忙しい方はヘルニア(脱腸)や痔核、胆石症などの治療では短期入院治療(一泊二日から)も可能です。

3. オーダーメイド治療

癌などの悪性疾患の治療では早期発見や適切な手術治療はもちろんのこと、安心して治療をうけていただく環境もとても大切なことと考えております。ご高齢の方や術後の体力の回復に自信のない方にはリハビリ／療養病棟を効果的に利用した“安心のゆったり治療”を提供いたします。

病理診断科 (管理棟2階)

組織・細胞を顕微鏡等で調べ、診断します。



1. 組織診断、細胞診断などの病理診断は最終診断として、臨床の先生方の治療、経過観察などの重要な情報となっています。特にがん診療においては迅速・的確な病理診断は必須です。当病理診断科はより質の高い医療を地域の皆さまにご提供できるよう貢献して参ります。
2. 術中迅速診断では、手術中にがんのリンパ節転移の有無などを顕微鏡で観察し15分以内に手術室に報告します。手術を行う先生方への大きな支援となり、よりの確な手術がなされます。
3. 当科では、通常機器以外にも自動免疫染色装置や液状化細胞診断装置など、高度医療に対応可能な機器を導入しています。
4. 手術臓器は全て写真撮影し、デジタル・ファイルとして管理・活用しています。ご紹介医療機関への報告資料として、また学術的な資料としても利用されています。
5. 病理組織診断、細胞診断に加えて病理解剖も行い、迅速・正確な病理診断を心がけています。病理解剖では、不幸にしてお亡くなりになられた患者さんを解剖させて頂き、病変の再評価を詳細に行い報告いたします。病理解剖診断は、これからの医療の重要な資料ともなっております。
6. 他施設の病理診断を支援させて頂くことも可能です。医師が正確な診断治療する手助けをします。